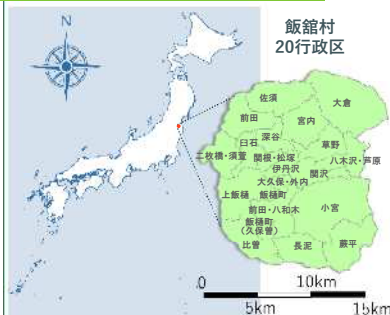


# 飯館村における農業再生と風評被害払拭のための教育研究プログラム

東京大学大学院農学生命科学研究科

## 飯館村との連携



■基本情報■  
 総面積:  
 230.13km<sup>2</sup>  
 村内居住者:  
 937名(世帯数:475)  
\*2018年11月1日現在  
 \*飯館村公表避難状況資料参照  
 2017年3月31日に  
 帰還困難区域(長泥)を  
 除き避難指示解除

- 事業責任者らは、原発事故の3か月後から飯館村に赴き、NPO法人や農家と協働で独自の農地除染法を開発し作物の試験栽培を実施
- 2018年3月5日、教員や学生が、村そして村民と連携した研究を進め、農畜産業の復興に繋げるため、飯館村と東京大学農学生命科学研究科の間で農畜産業復興に関する連携協定が行われた。



剥ぎ取り除染後の農地



作物の試験栽培



学生主体の花壇造園

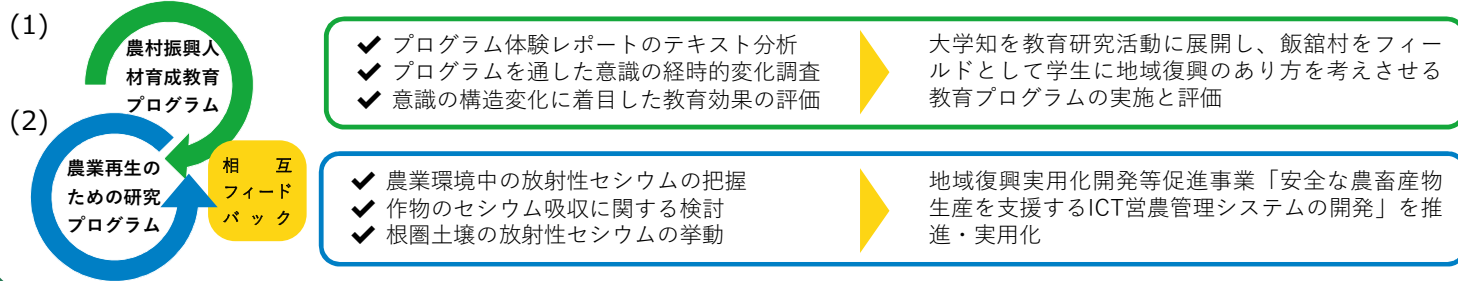


2018年3月の連携協定

## プログラム全体像

飯館村の農業復興には放射能汚染地というハンデにめげずに新しい日本型農業の創設にチャレンジする若者の育成が必要

蓄積されてきた大学知を教育研究活動に展開し、学生を飯館村の現地に連れて行くことで学生に「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考えさせるFPBL(Field & Project-based Learning)を実施。研究成果だけでなく参加者の評価を合わせ、教育プログラムとしてモジュール化を目指す。



## 2019年度ロードマップ

### <前年度フィードバック>

- 1) 継続的・広域的な放射線調査の必要性
- 2) フィールドトリップでの地域住民がコミュニケーターとなる科学技術コミュニケーションの重要性
- 3) 飯館村をはじめ、特に浜通りにおける小規模農林水産業に適した局所モニタリングシステムの必要性
- 4) 持続的な復興における経済(新規ビジネス)・環境(自然環境の維持)・文化(地域住民の生活)の三者の重視



- ・飯館フィールドトリップ、調査、およびワークショップ(7世代先の村構想)の継続
- ・農地貸し出しプロジェクトのパイロット(東大むら塾との協働)
- ・学会での2018年度分成果の発表(JpGU 2019 - 日本地球惑星科学連合2019年大会)
- ・連携地域のプロモーション展開(地酒「不死鳥の如く」、「復興」)

### <展望>

農村環境モニタリングシステム構築と風評被害を払拭した農村再生  
 斜面からの放射性セシウムの流入の寄与や、降下物の農作物汚染の影響を明らかにする。根近傍域での水、イオン動態の粘土鉱物の影響をモデル化。

総合科学としての農学を基にした次世代教育プログラム構築

学生を飯館村の現地に連れて行くことで学生に「現場を見ることの重要性」を実感させると共に、教員とフィールド研究を行うことで大学の社会的価値と地域復興のあり方を考える機会を与える。

2018年度末

2019年度中

2019年度末

## 東京大学 福島復興知アライアンス

東京大学では、2011年の東日本大震災後、福島復興に尽力して参りました。2018年度における復興知事業をきっかけとして、福島復興に関する研究者のプラットフォーム「東京大学 福島復興知アライアンス」が作られました。今後一層、学内の研究者の情報交換と学外に向けた情報発信の場を相互連携することで創出していきたいと考えています。

2019年3月には、事業に係る合同報告会を開催し、各プロジェクトの進捗の共有や情報交換を行いました。

ウェブサイトURL → <https://utfca.ric.u-tokyo.ac.jp/>



## メディア

本プログラムの計画趣旨や記録などは、こちらのウェブサイトでご覧頂けます。

<http://madeiuniv.jp/>



本プログラムの現地での活動などは写真を交えてTwitterにて随時更新中です。

Twitterで[#までい大学]